

「人生のやる気デザイン」研究部会（第13回）

日時：2021年5月17日（月）13:00～15:30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・倉住友恵・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・泉水里香（野間教育研究所事務局）

内容：（1）中井研究員：「人生のやる気として『恋愛』『結婚』にフォーカスした研究」

◆2010年以降でタイトルに「結婚」を含む原著論文をピックアップして紹介

◆「感情資本」に関する研究

Walsh, C. M., Neff, L. A., & Gleason, M. E. J. (2017). The role of emotional Capital during the early years of marriage: Why everyday moments matter. *Journal of Family Psychology, 31*(4), 513-519.

◆介入プログラムに関する研究

Rhoades, G. K., Stanley, S. M., Markman, H. J., & Allen, E. S. (2015). Can Marriage education mitigate the risks associated with premarital cohabitation? *Journal of Family Psychology, 29*(3), 500-506.

◆「動的目標理論」に関する研究

Li, T., Tsang, V. H.-L., Fung, H. H., Qiu, X.-L., & Wang, W.-C. (2020). Measuring dynamic goals for marriage: Development and validation of the Marital Goal Scale using Rasch modeling. *Psychological Assessment, 32*(3), 211-226.

◆「結婚」に関するその他の研究8本に言及

- 1) 「結婚」のアウトカムに関する研究
- 2) 「性的マイノリティ」と「結婚」に関する研究
- 3) 「宗教」と「結婚」に関する研究
- 4) 「DV」と「結婚」に関する研究
- 5) 「婚姻制度」と「結婚」に関する研究
- 6) 「結婚」の規定要因に関する研究
- 7) 「人種」と「結婚」に関する研究
- 8) 「嗜癖」と「結婚」に関する研究

（2）中谷研究員：「教室における援助要請を考える—学業的・社会的援助要請のレビュー」

◆孤立無援ではやる気は出ない。ではやる気が出る場をどう形成するか？

◆論文紹介：

「心理学評論」第63巻3号 「特集：助け合いの諸相と陥穽」（2021年3月）

著者：中谷 素之・岡田 涼

タイトル：「学業的・社会的領域の目標と学業的援助要請に関する包括的レビュー：援助を求めることは常に最善か？」

◆総括：学業的援助要請のもつ両価性：よりよい援助要請に向けて

単に“わからないから誰かに尋ねる”のではなく、自ら考え、ヒントを求めるといった適応的な援助要請が、学業達成をもたらす。そしてそのような援助要請は、学業的、社会的な熟達目標から促される可能性が示唆された

(3) 杉本研究員：「Grit と近い概念として Sense of Coherence (SOC) を検討」

◆首尾一貫感覚 Sense of Coherence (SOC)

ユダヤ系アメリカ人で医療・健康社会学者の Aron Antonovsky が提唱 (1979)

◆ストレスに直面時、SOC が GRRS を動員すると SOC も成長する

GRRS (汎抵抗資源： General Resistance Resources)：健康要因のうち、ストレスを乗り越えるために有益な資源のこと。主に、社会経済的地位 (学歴、職業、経済状態)、社会関係、遺伝的 素因、家庭環境(養育環境)など

◆SOC の 3 つの下位概念 (山崎、2008)

- ・把握可能感 (comprehensibility) = 「わかる感」(蛭名、2012)
- ・処理可能感 (manageability) = 「できる感」
- ・有意味感 (meaningfulness) = 「やるぞ感」

◆SOC の尺度

◆SOC についてのレビュー論文

Monica Eriksson and Bengt Lindström (2006). Antonovsky's sense of coherence scale and the relation with health: a systematic review, *Journal of Epidemiology and Community Health*, 60(5), 376-381.

◆SOC の規定要因に関わる質的研究

- 1 大淵守正 (2017) . 高齢者の首尾一貫感覚 (SOC) の規定要因に関する研究 — 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに準じた分析を用いて — 東北教育心理学研究, 14, 21-36.
- 2 嘉瀬貴祥・上野雄己・島本好平・大石和男 (2020) . 高い Sense of Coherence を持つ者の日常生活における問題への対処にかかわる行動や思考の特徴：計量テキスト分析による質的検討 ストレス科学 研究, 1-11.

◆Grit と SOC の関係

学生アスリートの首尾一貫感覚とグリットの関係 (谷木, 2019)

◆まとめ：Grit の高さの背景には SOC の高さが背景にある可能性。ということは GRRS (汎抵抗資源) がさらなる規定要因であると考えられる